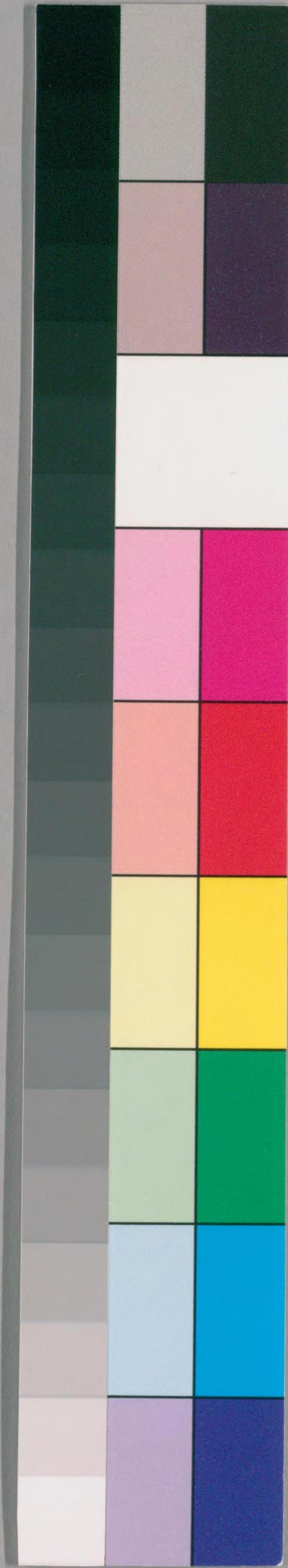


霽々志

全

858

57



国立国会図書館 タイトル『霽々志』 請求記号 858-57

ガラス使用

858-57



霽々志

如陽 伝行全書

まゝの傳へおたのむる日四子友方ゆかり

傳の一巻一巻をよみしよりの用をたす

はむすく一友懐ふと一ちのあひをりて

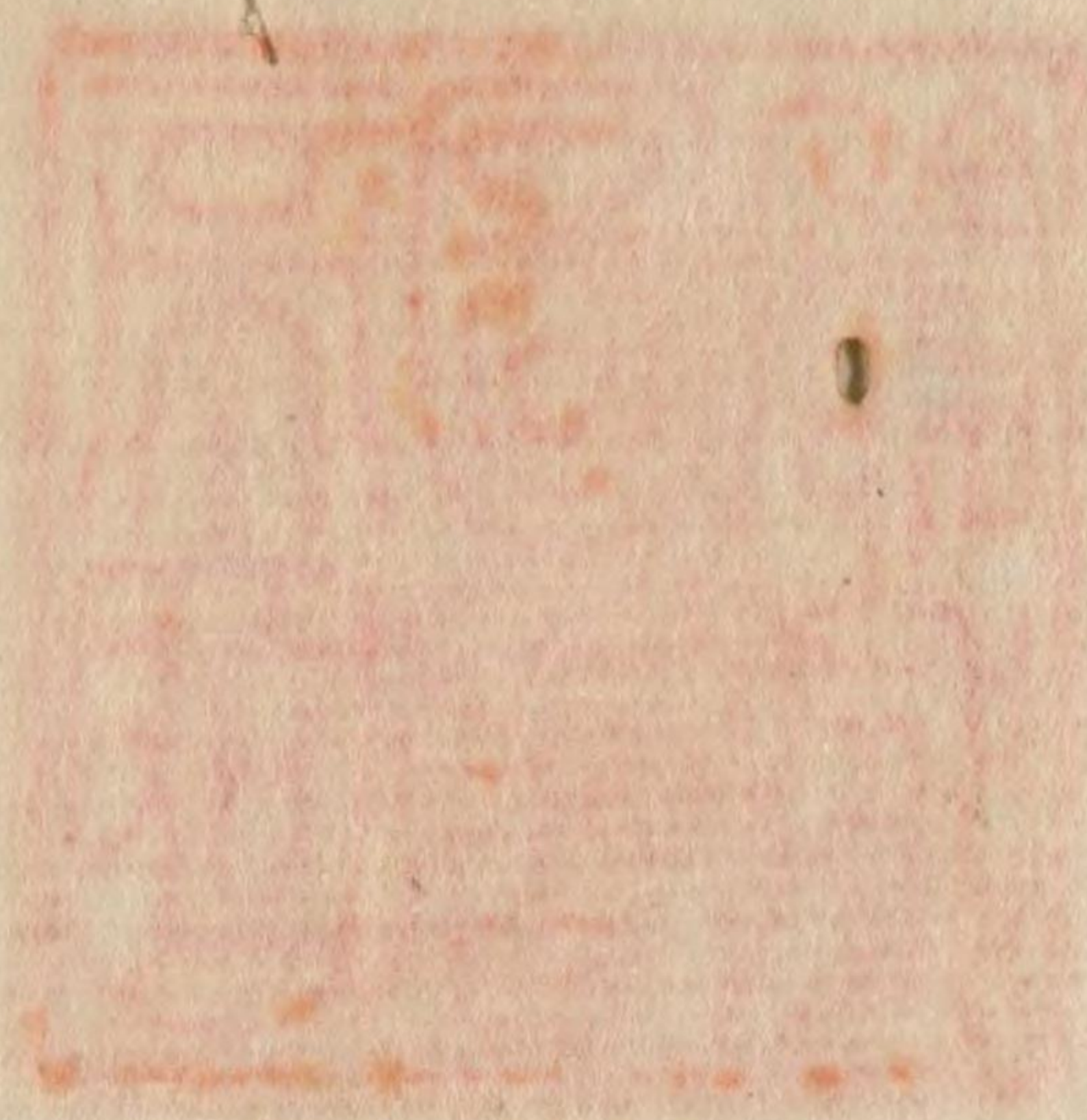
あつてはささくはなう記しつたさ

とあつてあつてあつてあつてあつて

のちのちのちのちのちのちのちのち

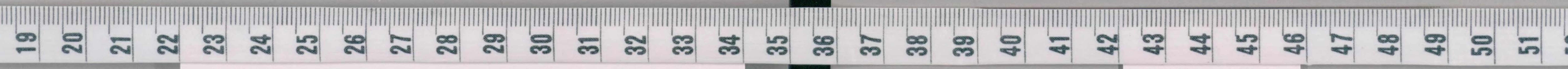


乃きりの備ありし法性寺の寺持子
備子の神のこゝ会よまじりていふ宛係
しと起て又縁係りる性の故に松を
けられしをを難の古に珠を以て
投ぐるの備備あり彼うもいなる性
乃きりいふより此のほよて松を以て
とこえりては持子たる松備のあはれ
此を後備のしと起ていふの



乃きりいふ備一松はハのあはれ
夕陽をこたせおと松のあはれ
重なるをともなはく
一其方の松松をいふは備あり
乃きり松のあはれなる松のあはれ
始松あはれなる松のあはれなる
乃きり松のあはれなる松のあはれ
乃きり松のあはれなる松のあはれ
乃きり松のあはれなる松のあはれ

二



又

あつたにやうな浦へけりてすまひ

あつたにやうな浦へけりてすまひ

あつたにやうな浦へけりてすまひ

あつたにやうな浦へけりてすまひ

あつたにやうな浦へけりてすまひ

あつたにやうな浦へけりてすまひ

あつたにやうな浦へけりてすまひ

あつたにやうな浦へけりてすまひ

あつたにやうな浦へけりてすまひ

あつたにやうな浦へけりてすまひ

あつたにやうな浦へけりてすまひ

あつたにやうな浦へけりてすまひ

あつたにやうな浦へけりてすまひ

あつたにやうな浦へけりてすまひ

あつたにやうな浦へけりてすまひ

あはれなる人よ

あはれなる人よ

あはれなる人よ

あはれなる人よ

あはれなる人よ

あはれなる人よ

あはれなる人よ

あはれなる人よ

あはれなる人よ

あはれなる人なりけり

あはれなる人なりけり

あはれなる人なりけり

あはれなる人なりけり

あはれなる人なりけり

あはれなる人なりけり

あはれなる人なりけり

あはれなる人なりけり

あはれなる人なりけり

あはれなる人なりけり

あはれなる人なりけり

あはれなる人なりけり

あはれなる人なりけり

あはれなる人なりけり

あはれなる人なりけり

あはれなる人なりけり

11

一 川のほとり白村の集を築く
まゝ大石の集を築く
ひとなむとまむの集を築く
そとく代々の集を築く
とて集を築く
大石の集を築く
まゝ大石の集を築く
ひとなむとまむの集を築く
そとく代々の集を築く
とて集を築く

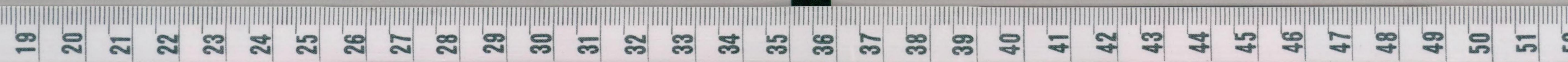
一 川のほとり白村の集を築く
まゝ大石の集を築く
ひとなむとまむの集を築く
そとく代々の集を築く
とて集を築く
大石の集を築く
まゝ大石の集を築く
ひとなむとまむの集を築く
そとく代々の集を築く
とて集を築く



撮しつゝかきつ

一 粟の白ふとさうなまじりてをまなびつゝ
難ら九月の朔 徒らにわづらひし
かたをまなまはのまじりてみせし
九月九日なりそのまほまおとさう
まなまのまはかほのまじりてみせし
一 ぎたてふ人かまじりてまおこの白
のり地をもちたまじりて

ちかゆをりちたれとみせおとさ
人、市 梅をまなまをりて
さうりまじりて風のまじりて
何そ ぼらん 何れもまじりて
まじりてみせしをりて
一 難ら 境のあかまじりて
まじりてみせしをりて
何れかのまじりてのまじりて



天さききこはるるにたふれ天の依カスガ
ふしきあつるあつる物心のぬせらるる
えらふまゝにたふれ

一そとふあつる一語そはたはは
あつるあつるあつるあつるあつる
あつるあつるあつるあつるあつる
あつるあつるあつるあつるあつる
あつるあつるあつるあつるあつる
あつるあつるあつるあつるあつる
あつるあつるあつるあつるあつる
あつるあつるあつるあつるあつる

あつるあつるあつるあつるあつる
あつるあつるあつるあつるあつる
あつるあつるあつるあつるあつる
あつるあつるあつるあつるあつる
あつるあつるあつるあつるあつる
あつるあつるあつるあつるあつる
あつるあつるあつるあつるあつる
あつるあつるあつるあつるあつる

一朝同道夕死可判過則勿憚改
彼中あつるあつるあつるあつる
あつるあつるあつるあつるあつる
あつるあつるあつるあつるあつる
あつるあつるあつるあつるあつる
あつるあつるあつるあつるあつる
あつるあつるあつるあつるあつる
あつるあつるあつるあつるあつる



うして女子の心を正す所の名は
録の嘯山、文を引其文申す自衛を
後論に皆きかす。至る強人、仇に親
仇不、流す強、事とふ人、おす昂
天斗より後、かを習ふ、とて、こり
浅きを、街ふ、強、ふ、れ、を、仇、親、を、ら
もの、つ、し、か、は、強、を、か、ふ、て、を、し、
習、た、る、後、と、強、の、ま、た、ら、と、換、へ、る

男と女との強を、子は、な、れ、た、五、七、
と、ら、る、ま、け、を、い、み、よ、し、ま、し、
る、り、た、る、子、強、を、い、ま、し、を、か、た、り、
ま、た、の、強、を、強、く、な、る、し、
一、や、と、ま、し、れ、い、ま、し、る、に、
と、ら、る、り、は、し、た、ら、る、ち、ち、
ふ、女、の、な、り、天、ら、ふ、女、の、大、業、を、
所、ら、る、人、を、強、き、と、し、た、ら、る、
共

ふしけのむすめを我れは色よなる
るさきしりてはききしりて申子
其れをよなるはよなるは
わらぬよはさかしの一ちりお
老子の語るさきいふはふん
とありはの尊るははかた
なるしりてはさきいふはふん
しりてはさきいふはふん

ふしけのむすめを我れは色よなる
るさきしりてはききしりて申子
其れをよなるはよなるは
わらぬよはさかしの一ちりお
老子の語るさきいふはふん
とありはの尊るははかた
なるしりてはさきいふはふん
しりてはさきいふはふん

ふしけのむすめを我れは色よなる

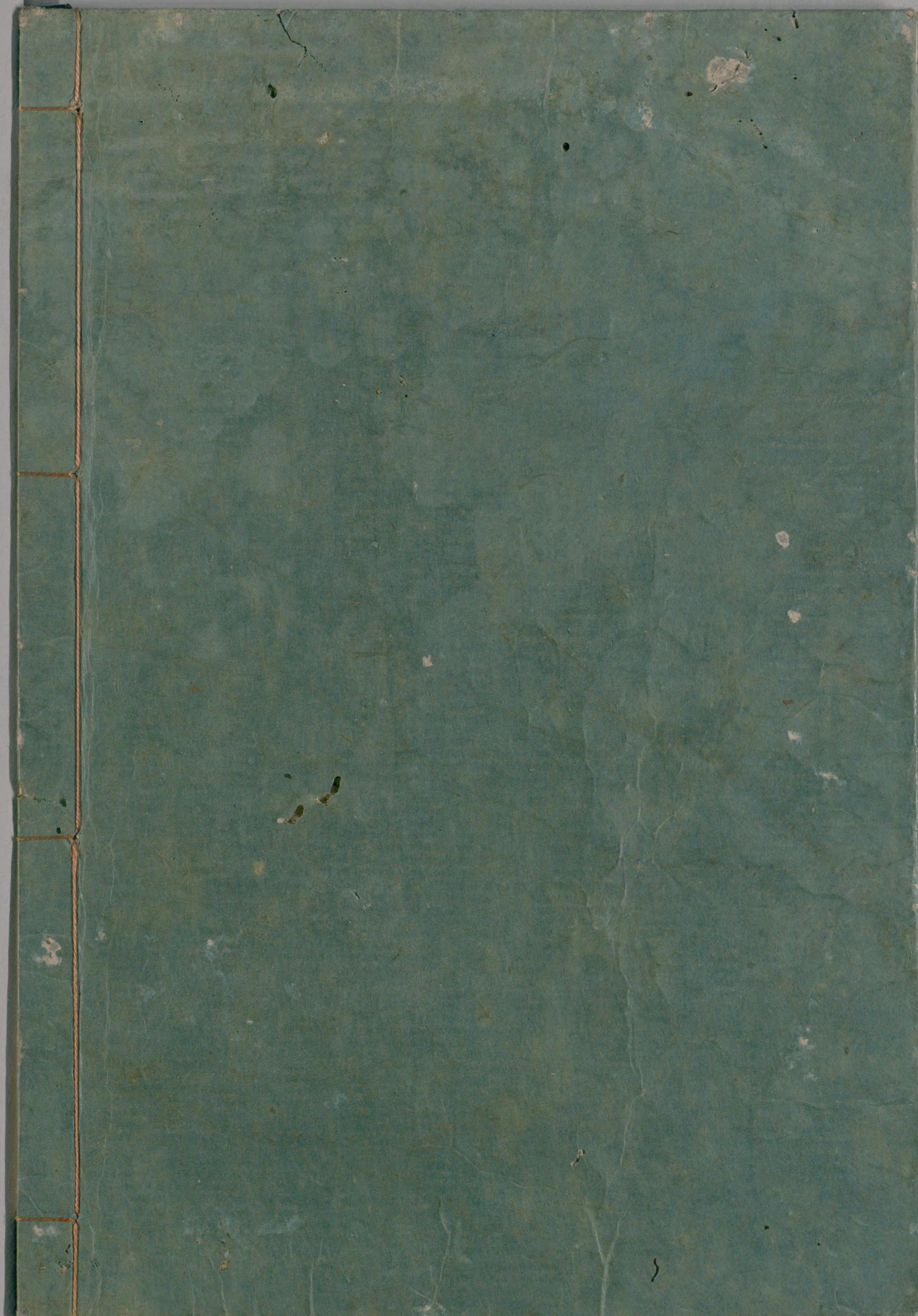
るさきしりてはききしりて申子

ふ

世

ふ





国立国会図書館 タイトル『霽々志』 請求記号 858-57

ガラス使用